

2024 年度 東京大学医学部皮膚科研修プログラム

A. 専門医研修の教育ポリシー：

研修を終了し所定の試験に合格した段階で、皮膚科専門医として信頼され安全で標準的な医療を国民に提供できる十分な知識と技術を獲得できることを目標とする。医師としての全般的な基本能力を基盤に、皮膚疾患の高度な専門的知識・治療技能を修得し、関連領域に関する広い視野をもって診療内容を高める。皮膚科の進歩に積極的に携わり、患者と医師との共同作業としての医療の推進に努める。医師としてまた皮膚科専門医として、医の倫理の確立に努め、医療情報の開示など社会的要望に応える。

B. プログラムの概要：

本プログラムは東京大学医学部附属病院皮膚科を研修基幹施設として、国際医療福祉大学三田病院皮膚科、日本赤十字社医療センター皮膚科、関東中央病院皮膚科、NTT 東日本関東病院皮膚科、関東労災病院皮膚科、国際医療研究センター皮膚科、三楽病院皮膚科、東京山手メディカルセンター皮膚科、同愛記念病院皮膚科、東京警察病院皮膚科、東京逋信病院皮膚科、虎の門病院皮膚科、相模原病院皮膚科、東京新宿メディカルセンター皮膚科、JR 東京総合病院皮膚科、自治医科大学医学部附属病院皮膚科、帝京大学医学部附属病院皮膚科、帝京大学医学部溝口病院皮膚科、埼玉小児医療センター皮膚科、山王病院皮膚科、都立広尾病院皮膚科、国際医療福祉大学病院皮膚科、筑波大学附属病院皮膚科、新松戸中央総合病院皮膚科、埼玉医科大学病院皮膚科、中京病院皮膚科、国際医療福祉大学成田病院皮膚科、国際医療福祉大学市川病院皮膚科、癌研究会有明病院皮膚科、東北大学医学部附属病院皮膚科、防衛医科大学校医学部皮膚科を研修連携施設として研修施設群を統括する研修プログラムである。なお、本プログラムは各研修施設の特徴を生かした複数の研修コースを設定している。（項目 J を参照のこと）

C. 研修体制：

研修基幹施設：東京大学医学部附属病院皮膚科

研修プログラム統括責任者（指導医）：佐藤伸一（診療科長）

専門領域：膠原病、皮膚アレルギー

指導医：柴田彩 専門領域：乾癬、水疱症

指導医：住田隼一 専門領域：膠原病

指導医：吉崎歩 専門領域：膠原病、乾癬
指導医：宮川卓也 専門領域：皮膚腫瘍、皮膚外科手術
指導医：山下尚志 専門領域：膠原病、乾癬
指導医：宮寄美幾 専門領域：膠原病、乾癬
指導医：三宅知美 専門領域：皮膚腫瘍、皮膚外科手術
指導医：吉崎麻子 専門領域：乾癬、アトピー性皮膚炎
指導医：尾松淳 専門領域：皮膚腫瘍、皮膚外科手術、皮膚レーザー
指導医：坊木ひかり 専門領域：リンフォーマ
指導医：深山麻衣子 専門領域：皮膚レーザー
指導医：山田大資 専門領域：皮膚外科、水疱症
指導医：三浦俊介 専門領域：膠原病、乾癬

施設特徴：専門外来として、膠原病外来、アトピー外来、リンフォーマ外来、皮膚外科外来、アトピー外来、水疱症外来、乾癬外来、レーザー外来を設けており、外来患者数は 1 日平均 140 名、入院患者数も 1 日平均 30 名にのぼり、豊富な経験を積むことが可能。年間手術件数は 400 件を超える。研究の面では、いくつかのグループを作り、指導医との連携を強め、多様な研究結果を創出している。

研修連携施設については別紙 1 参照。

研修基幹施設には、専攻医の研修を統括的に管理するための組織として以下の研修管理委員会を置く。研修管理委員会委員は研修プログラム統括責任者、プログラム連携施設担当者、指導医、他職種評価に加わる看護師等で構成される。研修管理委員会は、専攻医研修の管理統括だけでなく専攻医からの研修プログラムに関する研修評価を受け、施設や研修プログラム改善のフィードバックなどを行う。専攻医は十分なフィードバックが得られない場合には、専攻医は日本専門医機構皮膚科領域研修委員会へ意見を提出できる

研修管理委員会委員

別紙 2 参照。

前年度診療実績
別紙 3 参照。

D. 募集定員： 13 人

①通常プログラム：8 名

②連携プログラム：5 名

E. 研修応募者の選考方法：

書類審査，面接により決定する（詳細は東京大学医学部附属病院皮膚科のホームページ等で公表する）。また，選考結果は，本人あてに別途通知する。
なお，応募方法については，①応募申請書を東京大学医学部附属病院皮膚科のホームページよりダウンロードし，②履歴書，③卒後臨床研修成績証明書（修了見込み証明書），④研修病院からの推薦状と併せて提出すること。

F. 研修開始の届け出：

選考に合格した専攻医は，研修開始年の 3 月 31 日までにプログラム研修開始届に必要事項を記載のうえ，プログラム統括責任者の署名捺印をもらうこと。その後，同年 4 月 30 日までに皮膚科領域専門医委員会（hifusenmon@dermatol.or.jp）に通知すること。

G. 研修プログラム 問い合わせ先

東京大学医学部附属病院皮膚科

山下尚志

TEL：03-5800-8661

FAX：03-3814-1503

H. 到達研修目標：

本研修プログラムには，いくつかの項目において，到達目標が設定されている。別冊の研修カリキュラムと研修の記録を参照すること。特に研修カリキュラムの p. 26～27 には経験目標が掲示しているので熟読すること。

I. 研修施設群における研修分担：

それぞれの研修施設の特徴を生かした皮膚科研修を行い，研修カリキュラムに掲げられた目標に従って研修を行う。

1. 東京大学医学部附属病院皮膚科では医学一般の基本的知識技術を習得させた後，難治性疾患，稀な疾患などより専門性の高い疾患の診断・治療

の研修を行う。さらに医師としての診療能力に加え、教育・研究などの総合力を培う。また、少なくとも1年間の研修を行う。

2. 国際医療福祉大学三田病院皮膚科，日本赤十字社医療センター皮膚科，関東中央病院皮膚科，NTT 東日本関東病院皮膚科，関東労災病院皮膚科，国際医療研究センター皮膚科，三楽病院皮膚科，東京山手メディカルセンター皮膚科，同愛記念病院皮膚科，東京警察病院皮膚科，東京通信病院皮膚科，虎の門病院皮膚科，東都文京病院皮膚科，相模原病院皮膚科，東芝病院皮膚科，東京新宿メディカルセンター皮膚科，JR 東京総合病院皮膚科，自治医科大学医学部附属病院皮膚科，帝京大学医学部附属病院皮膚科，帝京大学医学部溝口病院皮膚科，埼玉小児医療センター皮膚科，山王病院皮膚科、都立広尾病院皮膚科、国際医療福祉大学病院皮膚科、筑波大学附属病院皮膚科、新松戸中央総合病院皮膚科、埼玉医科大学病院皮膚科、中京病院皮膚科、国際医療福祉大学成田病院皮膚科、国際医療福祉大学市川病院皮膚科、東北大学医学部附属病院皮膚科、防衛医科大学校医学部皮膚科では、急性期疾患，頻繁に関わる疾病に適切に対応できる総合的な診療能力を培い，地域医療の実践，病診連携を習得し，東京大学医学部附属病院皮膚科の研修を補完する。癌研究センター有明病院皮膚科、では，主に皮膚悪性腫瘍に対する手術療法，化学療法，終末期医療を習得する。これらの連携研修施設のいずれかで，原則として少なくとも1年間の研修を行う。

J. 研修内容について

1. 研修コース

本研修プログラムでは，以下の研修コースをもって皮膚科専門医を育成する。

ただし，研修施設側の事情により希望するコースでの研修が出来ないこともあり得る。また，記載されている異動時期についても研修施設側の事情により変更となる可能性がある。

・通常プログラム

コース	研修 1 年目	研修 2 年目	研修 3 年目	研修 4 年目	研修 5 年目
A	基幹	連携	連携	連携	連携
B	連携	連携	基幹	基幹	基幹
B'	基幹	連携	連携	基幹 or 連携	基幹 or 連携

C	基幹	連携	大学院 (臨床)	大学院 (研究)	大学院 (研究)
C'	連携	大学院 (臨床)	大学院 (研究)	大学院 (研究)	大学院 (研究)

上記は例であり、一部施設や順序などが変更になることがあります。

A：臨床研修重点コース

B：皮膚外科重点コース

B'：皮膚外科重点コース

C：研修後半に、博士号取得のための研究を開始するプログラム。博士号取得の基本的コース。

C'：専門医取得と博士号取得を同時に目指すコース。多大な努力を5年間持続する必要がある。カリキュラムを修了できない場合は6年目も大学で研修することを前提とする。

A：基幹施設で皮膚科の基礎を学んだ後に連携施設を中心に研修する臨床研修に重点を置いた基本的なコース。研修後期では後輩の指導を行うことにより自らの不足している部分を発見し補う。連携施設は原則として1～3年ごとで異動する。

B：皮膚腫瘍・外科専門医として活躍できるように連携施設にて2年間手術を中心に学んだ後、基幹施設で更なる技術の向上を目指す皮膚外科研修に重点をおいたコース。

B'：皮膚腫瘍・外科専門医として活躍できるように基幹施設で1年皮膚外科の基本を学んだ後、連携施設にて2年間手術を中心に技術を磨き、他の連携病院に異動、または基幹施設に戻り更なる技術の向上、後輩への指導を行う。

C：研修後半に、博士号取得のための研究を開始するプログラム。博士号取得の基本的コース。

C'：専門医取得と博士号取得を同時に目指すコース。多大な努力を5年間持続する必要がある。特に4年目、5年目は濃密な臨床研修を行わないとカリキュラム修了は困難である。カリキュラムを修了できない場合は6年目も大学で研修することを前提とする。

・連携プログラム

コース	研修 1 年目	研修 2 年目	研修 3 年目	研修 4 年目	研修 5 年目
a	基幹	基幹	千葉 連携施設	千葉 連携施設	埼玉 連携施設
b	千葉 連携施設	千葉 連携施設	埼玉 連携施設	基幹	基幹
c	基幹	自治医科 大学	自治医科 大学	栃木 連携施設	基幹

*連携プログラム枠にて採用されたものは、5 年間の研修期間のうち、1 年半以上をシーリング外の特定の地域にて研修を行う（2021年4月現在）。上記は例であり、一部施設や順序などが変更になることがあります。

- a：最初の 2 年間で東京大学および都内の研修連携施設などで研修し、残りの 3 年間で千葉県や埼玉県などの連携施設で研修する。
- b：最初の 3 年間で千葉県や埼玉県といった連携施設で研修し、残りの 2 年間で東京大学および都内の研修連携施設で研修する。
- c：最初と最後の 1 年間（合計 2 年間）を東京大学および都内の研修連携施設で研修し、2 年目から 4 年目までの 3 年間で自治医科大学や栃木県の連携施設で研修する。

2. 研修方法

1) 東京大学医学部附属病院皮膚科

外来：診察医に陪席し、外来診察、皮膚科的検査、治療を経験する。指導医とともに、午前中は初診、一般再来を、午後は専門外来、外来手術、病棟往診を担当する。

病棟：病棟医長のもと 2～3 チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察、検査、外用療法、手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い、評価を受ける。毎週のカンファレンスでは病理組織のプレゼンテーション、症例発表、研究発表（大学院生のみ）、学会予行を行い、評価を受ける。

皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に 1 編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表

病棟研修期間

	月	火	水	木	金	土	日
午前	病棟	病棟	回診 カンファレンス	病棟 手術	病棟		
午後	病棟 カンファレンス 病理	病棟	病棟	病棟 手術	病棟		

外来研修期間

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	外来 手術 病棟往診 カンファレンス 病理	外来 手術 病棟往診	外来 手術 病棟往診	外来 手術 病棟往診	外来 手術 病棟往診		

※日直・宿直は2～4回／月を予定

2) 連携施設

別紙4参照。

3) 大学院(臨床)

基本的に日中は大学病院または連携施設にて1) または2) と同様にフルタイムで研修し、17時以降、臨床研究、論文作成等を行う。

4) 大学院(研究)

皮膚科に関連する基礎研究及び臨床研究、及び大学院講義出席を主に行う。この期間中も一般外来、専門外来を週1～3日担当し、皮膚科臨床能力の維持と更なる向上も行う。大学病院での研修および達成度評価・年次総合評価は不要とする。

研修の年間予定表

月	行事予定
4	1年目：研修開始。皮膚科領域専門医委員会に専攻医登録申請を行う。 2年目以降：前年度の研修目標達成度評価報告を行う。
5	
6	日本皮膚科学会総会（開催時期は要確認）
7	
8	研修終了後：皮膚科専門医認定試験実施
9	
10	試験合格後：皮膚科専門医認定
11	
12	研修プログラム管理委員会を開催し、専攻医の研修状況の確認を行う （開催時期は年度によって異なる）
1	
2	5年目：研修の記録の統括評価を行う。
3	当該年度の研修終了し、年度評価を行う。 皮膚科専門医受験申請受付

K. 各年度の目標：

- 1, 2年目：主に東京大学医学部皮膚科において、カリキュラムに定められた一般目標、個別目標（1. 基本的知識 2. 診療技術 3. 薬物療法・手術・処置技術・その他治療 4. 医療人として必要な医療倫理・医療安全・医事法制・医療経済などの基本的姿勢・態度・知識 5. 生涯教育）を学習し、経験目標（1. 臨床症例経験 2. 手術症例経験 3. 検査経験）を中心に研修する。
- 3年目：経験目標を概ね修了し、皮膚科専門医に最低限必要な基本的知識・技術を習得し終えることを目標にする。
- 4, 5年目：経験目標疾患をすべて経験し、学習目標として定められている難治性疾患、稀な疾患など、より専門性の高い疾患の研修を行う。
3年目までに習得した知識、技術をさらに深化・確実なものとし、生涯学習する方策、習慣を身につけ皮膚科専門医として独立して診療できるように研修する。専門性を持ち臨床に結びついた形での研究活動に携わり、その成果を国内外の学会で発表し、論文を作成する。さらに後輩の指導にもあたり、研究・教育が可能な総合力を持った人材を培う。

毎 年 度：日本皮膚科学会主催教育講習会を受講する。また，東京支部地方会には可能な限り出席する。各疾患の診療ガイドラインを入手し，診療能力の向上に努める。PubMed などの検索や日本皮膚科学会が提供する E-ラーニングを受講し，自己学習に励む。

L. 研修実績の記録：

1. 「研修手帳」を，日本皮膚科学会ホームページからダウンロードし，利用すること。
2. 専攻医研修管理システムおよび会員マイページ内に以下の研修実績を記録する。
経験記録（皮膚科学各論，皮膚科的検査法，理学療法，手術療法），講習会受講記録（医療安全，感染対策，医療倫理，専門医共通講習，日本皮膚科学会主催専攻医必須講習会，専攻医選択講習会），学術業績記録（学会発表記録，論文発表記録）。
3. 専門医研修管理委員会はカンファレンスや抄読会の出席を記録する。
4. 専攻医，指導医，総括プログラム責任者は専攻医研修管理システムを用いて下記（M）の評価後，評価票を毎年保存する。
5. 「皮膚科専門医研修マニュアル」を，日本皮膚科学会ホームページからダウンロードし，確認すること。特に p. 15～16 では「皮膚科専攻医がすべきこと」が掲載されているので注意すること。

M. 研修の評価：

診療活動はもちろんのこと，知識の習熟度，技能の修得度，患者さんや同僚，他職種への態度，学術活動などの診療外活動，倫理社会的事項の理解度などにより，研修状況を総合的に評価され，「研修の記録」に記録される。

1. 専攻医は「研修の記録」の A. 形成的評価票に自己評価を記入し，毎年 3 月末までに指導医の評価を受ける。また，経験記録は適時，指導医の確認を受け確認印をもらう。
2. 専攻医は年次総合評価票に自己の研修に対する評価，指導医に対する評価，研修施設に対する評価，研修プログラムに対する評価を記載し，指導医に提出する。指導医に提出しづらい内容を含む場合，研修プログラム責任者に直接口頭，あるいは文書で伝えることとする。
3. 指導医は専攻医の評価・フィードバックを行い年次総合評価票に記載する。また，看護師などに他職種評価を依頼する。以上を研修プログラム責任者に毎年提出する。
4. 研修プログラム責任者は，研修プログラム管理委員会を開催し，提出さ

れた評価票を元に次年度の研修内容、プログラム、研修環境の改善を検討する。

5. 専攻医は研修修了時まで全ての記載が終わった「研修の記録」、経験症例レポート 15 例、手術症例レポート 10 例以上をプログラム統括責任者に提出し、総括評価を受ける。
6. 研修プログラム責任者は、研修修了時に研修到達目標のすべてが達成されていることを確認し、総括評価を記載した研修修了証明書を発行し、皮膚科領域専門医委員会に提出する。

N. 研修の休止・中断，異動：

1. 研修期間中に休職等により研修を休止している期間は研修期間に含まれない。
2. 研修期間のうち、産休・育休に伴い研修を休止している期間は最大 6 ヶ月までは研修期間に認められる。なお、出産を証明するための添付資料が別に必要となる。
3. 諸事情により本プログラムの中断あるいは他の研修基幹施設のプログラムへ異動する必要がある生じた場合、すみやかにプログラム統括責任者に連絡し、中断あるいは異動までの研修評価を受けること。

O. 労務条件，労働安全：

労務条件は勤務する病院の労務条件に従うこととする。

給与、休暇等については各施設のホームページを参照，あるいは人事課に問い合わせること。なお、当院における当直はおおむね 3～4 回/月程度である。

2023 年 5 月 1 日
東京大学医学部皮膚科
専門研修プログラム統括責任者
佐藤 伸一

別紙1 研修連携施設

研修連携施設	所在地	プログラム連携施設担当者	役職	指導医	役職
国際医療福祉大学三田病院皮膚科	〒108-8329 東京都港区三田1-4-3	竹腰 知紀	講師	左同	
日本赤十字社医療センター皮膚科	〒150-8935 東京都渋谷区広尾4-1-22	今門 純久	診療部長	左同	
関東中央病院皮膚科	〒158-8531 東京都世田谷区上用賀6-25-1	鑑 慎司	部長	左同	
NTT東日本関東病院皮膚科	〒141-8625 東京都品川区東五反田5-9-22	出月健夫	部長	左同	
関東労災病院皮膚科	〒211-8510 神奈川県川崎市中原区木月住吉町1-1	足立 真	主任部長	左同	
国立国際医療研究センター皮膚科	〒162-8655 東京都新宿区戸山1-21-1	玉木 毅	医長	野々垣彰	
三楽病院皮膚科	〒101-8326 東京都千代田区神田駿河台2-5	川嶋 智彦	皮膚科科長	左同	
東京山手メディカルセンター皮膚科	〒169-0073 東京都新宿区百人町3-22-1	鳥居 秀嗣	診療部長	左同	
同愛記念病院皮膚科	〒134-0091 東京都墨田区横網2-1-11	河瀬 ゆり子	部長	左同	
東京警察病院皮膚科	〒164-0001 東京都中野区中野4-22-1	五十棲 健	科長	左同	
東京通信病院皮膚科	〒102-8798 東京都千代田区富士見2-14-23	三井 浩	診療部長	橋本優希	
虎の門病院皮膚科	〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-2-2	林 伸和	部長	岸晶子、吉田亜希	
相模原病院皮膚科	〒228-8852 神奈川県相模原市南区桜台18-1	大松 華子	診療科長	三井彩、矢野優美子	
東京新宿メディカルセンター皮膚科	〒162-8543 東京都新宿区津久戸町5-1	川崎 朋子	医員	左同	
JR東京総合病院皮膚科	〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-1-3	大野 祐樹	科長	左同	
癌研究会有明病院皮膚科	〒135-8550 東京都江東区有明3-8-31	吉野 公二	診療科長	日浦梓	
自治医科大学医学部附属病院皮膚科	〒329-0498 栃木県下野市薬師寺3311-1	大槻 マミ太郎	教授・診療科長	小宮根真弓、前川武雄、佐藤篤子、神谷浩二	
帝京大学医学部附属病院皮膚科	〒173-8606 東京都板橋区加賀2-11-1	田中 隆光	医局長	多田弥生、大西誉光、石川武子、福安厚子、鎌田昌洋、林耕太郎、深谷早希	
帝京大学医学部附属溝口病院皮膚科	〒213-8507 神奈川県川崎市高津区溝口3-8-3	栗野 嘉弘	教授・診療科長	平林恵、軸屋そのこ	
国際医療福祉大学市川病院皮膚科	〒272-0827 千葉県市川市国府台6丁目1-14	鈴木 大介	部長	左同	
埼玉県立小児医療センター皮膚科	〒339-0077 埼玉県さいたま市岩槻区大字馬込2100	玉城 善史郎	診療科長	左同	
山王病院皮膚科	〒107-0052 東京都港区赤坂 8-10-16	佐藤 佐由里	部長	左同	
都立広尾病院皮膚科	〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿2-34-10	岩澤 うつぎ	部長	左同	
国際医療福祉大学病院皮膚科	〒329-2763 栃木県那須塩原市井口537-3	大塚 勤	部長	左同	
筑波大学附属病院皮膚科	〒305-8576 茨城県つくば市天久保2-1-1	乃村 俊史	教授	石井良征、沖山奈緒子、古田淳一、久保田典子、藤澤康弘、小川達也、石月翔一郎、奥根真理	
新松戸総合病院皮膚科	〒270-0034 千葉県松戸市新松戸1丁目380番地	佐々木優	部長	左同	
東北大学医学部附属病院皮膚科	〒980-8574 仙台市青葉区星陵町1-1	浅野善英	教授	橋本彰、水芦政人、藤村卓、高橋隼也、神林由美、古舘禎騎、大森遼子、照井仁、八丁目直和	
埼玉医科大学病院皮膚科	〒350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38	常深祐一郎	教授	常深祐一郎、柳澤宏人、宮野恭平、青笹尚彦、村上拓生、竹治真明	
中京病院皮膚科	〒457-8510 愛知県名古屋市中区三條一丁目1番10号	小寺 雅也	部長	伊藤有美	
国際医療福祉大学成田病院皮膚科	〒286-0124 千葉県成田市大字畑ケ田字地藏前852番1	宣谷 誠	教授	森村壮志	
防衛医科大学校病院皮膚科	〒359-8513 埼玉県所沢市並木3-2	佐藤貴浩	教授	左同	

別紙2 研修管理委員会

委員長	佐藤 伸一	東京大学医学部附属病院皮膚科	教授
委員	柴田 彩	東京大学医学部附属病院皮膚科	准教授
	徳山 薫	東京大学医学部附属病院皮膚科	病棟看護師長
	竹腰 知紀	国際医療福祉大学三田病院皮膚科	講師
	今門 純久	日本赤十字社医療センター皮膚科	診療部長
	鑑 慎司	関東中央病院皮膚科	部長
	出月 健夫	NTT東日本関東病院皮膚科	部長
	足立 真	関東労災病院皮膚科	主任部長
	玉木 毅	国立国際医療研究センター皮膚科	医長
	川嶋 智彦	三楽病院皮膚科	科長
	鳥居 秀嗣	東京山手メディカルセンター皮膚科	診療部長
	河瀬 ゆり子	同愛記念病院皮膚科	部長
	五十棲 健	東京警察病院皮膚科	科長
	三井 浩	東京通信病院皮膚科	診療部長
	林 伸和	虎の門病院皮膚科	部長
	大松 華子	相模原病院皮膚科	診療科長
	川崎 朋子	東京新宿メディカルセンター皮膚科	医員
	大野 祐樹	JR東京総合病院皮膚科	科長
	吉野 公二	癌研究会有明病院	診療科長
	大槻 マミ太郎	自治医科大学医学部附属病院皮膚科	教授・診療科長
	田中 隆光	帝京大学医学部附属病院皮膚科	医局長
	栗野 嘉弘	帝京大学医学部附属溝口病院皮膚科	部長
	鈴木 大介	国際医療福祉大学市川病院皮膚科	部長
	玉城 善史郎	埼玉県立小児医療センター皮膚科	診療科長
	佐藤 佐由里	山王病院皮膚科	部長
	岩澤 うつぎ	都立広尾病院皮膚科	部長
	大塚 勤	国際医療福祉大学病院皮膚科	部長
	乃村 俊史	筑波大学附属病院皮膚科	教授
	佐々木 優	新松戸中央総合病院皮膚科	診療部長
	浅野 善英	東北大学医学部附属病院皮膚科	教授
	常深 祐一郎	埼玉医科大学病院皮膚科	教授
	小寺 雅也	中京病院皮膚科	部長
	菅谷 誠	国際医療福祉大学成田病院皮膚科	教授
	佐藤 貴浩	防衛医科大学校病院皮膚科	教授

別紙3 前年度診療実績

	施設名	1日平均外来患者数	1日平均入院患者数	局所麻酔年間手術数	全身麻酔年間手術数	指導医数
1	東京大学医学部附属病院皮膚科	123.0名	31.9名	1227	133	13
2	国際医療福祉大学三田病院皮膚科	46.1名	0.6名	201	0	1
3	日本赤十字社医療センター皮膚科	51.9名	5.1名	303	12	1
4	関東中央病院皮膚科	68.1名	5.2名	390	16	1
5	NTT東日本関東病院皮膚科	100.0名	8.0名	711	11	1
6	関東労災病院皮膚科	60.0名	3.0名	200	0	2
7	国立国際医療研究センター皮膚科	36.9名	3.4名	265	2	2
8	三楽病院皮膚科	70.0名	2.0名	240	2	1
9	東京山手メディカルセンター皮膚科	36.0名	1.6名	153	0	1
10	同愛記念病院皮膚科	55.4名	4.6名	367	1	1
11	東京警察病院皮膚科	64.6名	1.2名	84	0	1
12	東京通信病院皮膚科	114.0名	4.5名	301	0	2
13	虎の門病院皮膚科	133.0名	4.7名	991	55	3
14	相模原病院皮膚科	47.0名	1.7名	274	0	1
15	東京新宿メディカルセンター皮膚科	30.5名	2.1名	175	0	1
16	JR東京総合病院皮膚科	69.2名	2.3名	205	0	1
17	癌研究会有明病院皮膚科	29.1名	8.1名	145	152	2
18	自治医科大学医学部附属病院皮膚科	101.0名	13.0名	1305	168	5
19	帝京大学医学部附属病院皮膚科	124.8名	11.8名	997	67	8
20	帝京大学医学部附属溝口病院皮膚科	91.9名	6.6名	677	2	3
21	国際医療福祉大学市川病院皮膚科	30.0名	2.5名	173	1	1
22	埼玉県立小児医療センター皮膚科	25.0名	1.0名	609	137	1
23	山王病院皮膚科	60.0名	1.0名	153	0	1
24	都立広尾病院皮膚科	46名	1.6名	355	11	1
25	国際医療福祉大学病院	41.0名	2.0名	189	0	1
26	筑波大学附属病院皮膚科	75.3名	13.5名	972	64	8
27	新松戸中央総合病院皮膚科	52.0名	3.0名	235	0	1
28	東北大学医学部附属病院皮膚科	131.8名	16.1名	983	109	10
29	埼玉医科大学皮膚科	86.5名	19.2名	910	140	4
30	中京病院皮膚科	85.0名	12.6名	222	8	2
31	国際医療福祉大学成田病院皮膚科	70.0名	5.0名	774	20	3
32	防衛医科大学校病院皮膚科	79.0名	5.9名	754	8	4

2) 連携施設

国際医療福祉大学三田病院皮膚科

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，皮膚科一般診療、救急医療，処置，手術法を習得する。東京大学医学部皮膚科のカンファレンスに週 1 回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に 2 回以上の筆頭演者としての学会発表もしくは年 1 本以上の皮膚科学分野の学術誌への論文投稿を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来 病棟	外来 病棟	外来 病棟	外来 病棟	外来 病棟	外来 病棟	
午後	病棟 手術 カンファレンス	病棟 外来 カンファレンス	病棟 外来	病棟 手術	病棟 外来	病棟 外来	

週に 2 コマ（半日を 1 コマとする）の研究日を設ける

日本赤十字社医療センター皮膚科

指導医の下，中核病院の勤務医として，皮膚疾患の診察，記載，処置，手術法を習得する。水曜午後の日本赤十字社医療センター皮膚科の写真および病理カンファレンス，抄読会に参加し学習する。必須の講習会を受講し，年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。月 1 回の城南地区皮膚病理組織検討会，お茶の水皮膚病理勉強会に積極的に参加し症例提示する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来 病棟*	外来 病棟*	外来 病棟*	外来 病棟*	外来 病棟*	※	※
午後	外来 褥瘡回診	創傷ケア外来	外来 カンファレンス	手術	外来 手術		

※週末病棟当番は 3～4 回／月を予定

*入院患者の診察は、朝外来開始前および昼休み時間帯

関東中央病院皮膚科

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の外来診療，病棟診療処置，手術法を習得する。病理検討会，臨床写真検討会に週 1 回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する感染対策講習会、医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来	病棟 (交代制)	
午後	病棟 手術	病棟 手術	病棟 回診 検討会	病棟 手術 検討会	病棟 手術		

※宿直は平日に 1 回／月を予定

NTT 東日本関東病院皮膚科

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。城南地区合同組織検討会のカンファレンスに月 1 回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	回診 外来	外来	外来	外来		
午後	手術 病棟	病棟 病理カン ファレンス	病棟 手術 カンファレンス	外来 病棟	手術 病棟		

関東労災病院皮膚科

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。東京大学医学部皮膚科のカンファレンス，抄読会に週 1 回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	病棟	病棟	外来	外来	病棟		
午後	外来	外来 手術	病棟 手術 カンファレンス	病棟	外来 手術		

国立国際医療研究センター病院皮膚科

外来：研修前期は指導医に陪席し，後期は指導医と並列で，外来診察，皮膚科的検査，治療を経験する。毎週の臨床写真・病理カンファレンスで経験症例について説明し，評価を受ける。後期には地域医療を行っているクリニックでの，週 1 回の外勤にて，往診による地域医療を経験する（曜日によりクリニックが中規模地域病院での外来診療となることもあり）

病棟：指導医のもと担当患者の診察，検査，外用療法，手術手技を習得する。毎日 15：30～の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い，評価を受ける。毎週の臨床写真・病理カンファレンスで経験症例について説明し，評価を受ける。

抄読・勉強会では 1～2 回/月 その月の重要・問題症例に関係した英文・邦文論文を元にディスカッションを行う。月 1 回院内で開催される FCC (Foot Care & Cure) と称する多診療科・多職種横断的カンファレンスに出席し，その月の糖尿病性足病変・重症下肢虚血等の症例についてプレゼンテーション・ディスカッションを行う。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。1・5・9 月に開催される城西地区皮膚科病理組織勉強会（妻月会）に出席し，症例発表もしくは聴講する。その他皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーにも積極的に参加する。病院が実施する医療安全・感染管理・医療機器取扱・接遇等に関する講習会（eラーニング方式および講演会方式）に定期的に参加する。年に 1 編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	病棟	外来	病棟	病棟		
午後	他科兼診 対応・ 病棟 回診	手術 (前期) 地域医療 (後期) 回診 (前 期のみ)	他科兼診 対応・ 病棟 回診	手術 回診	手術 回診 カンファレンス		

三楽病院皮膚科

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、皮膚科一般の診断/治療、処置、手術法を習得する。皮膚エコー・ダーモスコープを用いた診断にも習熟する。炭酸ガスレーザー・ルビーレーザーを用いた処置や、ピーリングなどの簡単な美容処置も習得する。病理診断難渋症例は東京医科歯科大学のお茶の水皮膚病理勉強会のカンファレンスに出席し学習する。積極的に筆頭演者として学会発表を行うことを目標とする。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外勤 (出向)	外来	外来	外来 (第2・第4交代制)	
午後	手術 (中央手術室)	レーザー/美容 病棟	手術 (中央手術室)	外来 病棟	レーザー/美容 病棟 夕診(交代制)		

※宿直は2回/月 (院内では外科当直・対外的には皮膚科当直として)

東京新宿メディカルセンター皮膚科

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。東京大学医学部皮膚科あるいは帝京大学医学皮膚科のカンファレンス、抄読会に週1回参加し学習する。隔週で行われる当院医局のカンファレンス(臨床写真供覧、病理組織供覧、学会予行)に参加し学習す

る。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、筆頭演者・著者として年に2回以上学会発表、年1回以上論文発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会、感染防止対策講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 手術	病棟 褥瘡回診 カンファレンス	病棟 光線外来	病棟 カンファレンス	病棟 手術	ICU 当直 ※	

※ICU 当直は1回／月を予定

同愛記念病院皮膚科

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、皮膚科医療、処置、手術法を習得する。この期間は東京大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会には参加しなくても良い。必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	研究日	外来	外来	外来、病棟	
午後	病棟 回診、カンファレンス	病棟 自由診療	研究日	手術	病棟 褥瘡回診		

東京警察病院皮膚科

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の皮膚科的救急医療、処置、手術法、外来診療、入院診療を習得する。中野杉並地区地域連携講演会、東京大学医学部関連病院の連携講演会、日本皮膚科学会主催の講習会、病院内の感染症関連の講習会、医療安全講習会、個人情報保護講習会等

を受講する。該当症例があれば、筆頭演者として学会発表および論文執筆を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	公休	外来	外来	外来	
午後	症例検討・手術 病棟・廻診 宿直*	症例検討・手術 病棟・廻診 カンファレンス	公休	病棟 廻診	外来 廻診	病棟 学会・講習会**	

*宿直は1～2回／月（病棟内科当直）を予定

**学会、講習会（平日夜、土曜、日曜随時開催）は可能な状況により適時参加

東京通信病院皮膚科

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として外来診察，皮膚科的検査，治療，救急医療，処置，手術法を経験する。外来は，午前中は初診，一般再来を，午後は外来手術，レーザー治療，病棟往診を担当する。病棟は指導医のもと担当患者の診察，検査，外用療法，手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い，評価を受ける。毎週のカンファレンスでは病理組織のプレゼンテーション、学会予行を行い，評価を受ける。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目指す。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	回診 外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 外来	病棟 外来/ 手術	病棟 外来	病棟 外来/ 手術	病棟 外来		

	カンファレンス	レーザー				宿直※	
--	---------	------	--	--	--	-----	--

※宿直は 2 回／月を予定

虎の門病院皮膚科

外来：診察医に陪席し，外来診察，皮膚科的検査，治療を経験する。

病棟：部長，医長のもと，数チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察，検査，外用療法，手術手技を習得する。毎週の病棟回診と病理組織カンファレンスで受け持ち患者のプレゼンテーションを行い，評価を受ける。

抄読会・勉強会では教科書等の輪読や英文論文の紹介を行う。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に 1 編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
早朝			抄読会・勉強会		抄読会・勉強会	病棟処置(当番制)	
午前	外来	外来	外来	手術	外来		
午後	外来手術	外来手術	写真検討会	レーザー 施術（入院）	外来手術		
	レーザー 施術	レーザー 施術	病理カンファレンス		レーザー 施術		
	病棟	病棟	病棟回診	病棟	病棟		

帝京大学医学部附属病院皮膚科

外来：診察医に陪席し，さらに外来診察，皮膚科的検査，治療を経験する。毎週の病理カンファレンスで症例発表を行い，評価を受ける。

病棟：病棟医長のもと数チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察，検査，外用療法，手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い，評価を受ける。

抄読会では 1 回/月 英文論文を読み，全員でディスカッションする。皮膚科

学会主催の必須の講習会を受講し、年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に 1 編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表（例）

	月	火	水	木	金	土	日
午前	病棟	外来	外来	病棟	準連携	外来	
午後	病棟 手術 レーザー	回診 病理 カンファレンス	病棟 カンファレンス	病棟 手術 レーザー	準連携		

※宿直は約 3 回／月を予定

※外来、病棟は時期によって入れ換える可能性あり

※準連携施設の曜日は研修施設側の事情により変更となる可能性がある。

相模原病院皮膚科

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、他院からの紹介患者を主な対象とした診療を行う。当該患者は他院で診断確定や症状寛解に至らなかったケースが大部分なので、生検等の各種検査を行い、診断確定後、治療方針を決定する。午前中～昼過ぎまでは通常外来を行う。水曜以外の午後は生検・小手術・検査を外来で行い、加えて皮膚科入院患者の病棟診察・他科入院患者の往診を行う。水曜午後は、中央手術室にて悪性腫瘍等の手術を行う。隔週金曜午後は褥瘡回診に参加する。以上の診療を通して、第一線の皮膚科診断・治療法、処置、手術法を習得する。東京大学医学部皮膚科が開催する各種講演会やカンファレンス、また近隣地域の皮膚科勉強会・学術講演会に、2 週に一度程度の頻度で参加して学習する。当院病理診断科と合同の皮膚病理カンファレンスに月に一度参加し、症例を発表する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行い、該当症例につき論文執筆を行う。皮膚科関連の学会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会や CPC に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	外来	外来	外来	外来	外来		

	病棟・往診 外来手術 検査	病棟・往診 外来手術 検査	病棟 中央手術 カンファレンス	病棟・往診 外来手術 検査	病棟・往診 外来手術 検査・褥瘡回診	日直もしくは宿直※	
--	---------------------	---------------------	-----------------------	---------------------	--------------------------	-----------	--

※日直もしくは宿直は1回／月を予定

東京山手メディカルセンター皮膚科

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として common disease の診断，治療に加え，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。東京大学医学部皮膚科のカンファレンスに週1回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	手術 病棟	病棟	外来 病棟 カンファレンス	手術 病棟 褥瘡回診	手術 病棟		

JR 東京総合病院皮膚科

JR 東日本(株)の職域病院で、JR 社員・家族の健康管理を行うと同時に、渋谷区周辺の医院・病院と連携して、地域住民の健康管理も担っている。外来患者数は1日平均94名にのぼり、豊富な経験を積むことが可能である。また、外来手術日を週三日設け、さまざまな皮膚腫瘍の手術を行っている。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土
午前	外来	外来	病棟	外来	外来	外来
午後	手術・病棟	病棟	手術・病棟	外来	手術・病棟	病棟

*宿直は1回/月を予定

がん研究会有明病院皮膚科

指導医の下，都道府県がん連携拠点病院の勤務医として，皮膚悪性腫瘍患者の手術療法，化学療法、放射線療法ならびに緩和医療を中心に習得する。東京大学医学部皮膚科のカンファレンス，抄読会は参加しなくて良い。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来 手術	手術	病棟 手術	病棟	病棟	
午後	外来 カンファレンス	病棟 カンファレンス	手術 カンファレンス	病棟 カンファレンス	病棟 カンファレンス	宿直※	

※宿直は 2 回／月を予定

2) 連携施設

自治医科大学医学部皮膚科

外来：午前中は，初診医に陪席し，外来診察，皮膚科的検査，治療を経験する。

基本的な皮膚科診療の思考方法を習得したあとは，一般再診医の一人として診療を行い，更に臨床経験を積む。午後は専門外来，外来手術，病棟往診を担当する。

病棟：病棟医長のもと数チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察，検査，外用療法，手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い，評価を受ける。毎週の病理カンファレンスで症例発表を行い，評価を受ける。

抄読会では 1 回/月 英文論文を紹介する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に 5 回以上筆頭演者として学会発表を行う。また，皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院内で実施される関連診療科連携症例検討会や，医療倫理，医療安全，院内感染症対策等の講習会に定期的に参加する。年に 1 編以上，筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

病棟研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
--	---	---	---	---	---	---	---

午前	病棟	教授回診	病棟	中央手術 室手術	病棟		
午後	病棟・病棟 手術	カンファ レンス(外 来, 病理, 手術)	病棟・病棟 手術	中央手術 室手術 病棟カンファ レンス	病棟・病棟 手術		

外来研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	外来手術, 病棟往診	カンファ レンス(外 来, 病理, 手術)	専門外来, 外来手術, 病棟往診	専門外来, 外来手術, 病棟往診 病棟カンファ レンス	外来手術, 病棟往診		

外来研修と病棟研修は、3ヶ月毎に担当の組み替えがある。

この他、非常勤半日の他院での外来診療が少なくとも週1回以上あり、急性期疾患や頻繁に関わる疾病に適切に対応できる総合的な診療能力を培う。

※日直・宿直に関しては月に平日4回、休日に2回程度。

帝京大学医学部附属溝口病院皮膚科

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、皮膚科領域のすべてを習得する。カンファレンス、抄読会に週1回参加し学習する。形成外科、病理とも合同カンファレンスを行う。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来	外来	
午後	病棟	美容	病棟	病棟	美容		

	外来 カンファレンス 宿直	手術	外来	外来	外来		
--	---------------------	----	----	----	----	--	--

※宿直は1回／月を予定

国際医療福祉大学市川病院皮膚科

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。公立昭和病院皮膚科のカンファレンスに週1回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に1回以上筆頭演者として学会発表もしくは論文発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来 病棟	外来	外来 病棟	外来 病棟	外来	病棟	
午後	病棟 手術	病棟 手術	病棟 手術	病棟 手術	病棟 手術 カンファレンス		

埼玉県立小児医療センター皮膚科

指導医の下，地域医療の勤務医として，小児のあらゆる皮膚疾患に対しての診断、処置、手術法を習得する。東京大学医学部皮膚科のカンファレンスに週1回参加し学習する。必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来 病棟	外来	外来		
午後	外来	外来 カンファレンス	手術 病棟	外来	手術		

山王病院皮膚科

指導医の下，地域医療の総合病院の勤務医として，皮膚科一般診療，処置，手術法を習得する。東京大学医学部皮膚科あるいは関連病院のカンファレンスに月 2 回以上参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来	外来	
午後	病棟 外来 カンファ レンス	病棟 手術	病棟 外来	研究日	病棟 外来	宿直※	

※宿直は 1 ～ 2 回／月を予定

都立広尾病院皮膚科

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。虎の門病院皮膚科のカンファレンス，抄読会に週 1 回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	病棟	外来	外来	手術		
午後	病棟	病棟	病棟 カンファレンス	病棟	病棟 手術		

当直は月 2 回

国際医療福祉大学病院皮膚科

指導医の下，中核病院の勤務医として，皮膚疾患の診察，記載，処置，手術

法を習得する。水曜午後の国際医療福祉大学病院皮膚科の臨床写真および病理カンファレンス、抄読会に参加し学習する。必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行い、年1本以上の皮膚科学分野の学術誌への論文投稿を行う。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来 病棟*	外来	外来	外来	※
午後	手術 病棟*	手術 病棟*	手術 カンファレンス	手術 病棟*	手術 病棟*	手術	

日曜日以外に週に1日の研究日、週に1日の外勤日を設ける。

その結果、外来等の勤務日数は週4日となる。

※週末病棟当番は1～2回/月を予定。

*入院患者の診察は、朝外来開始前および午後の手術、検査予定外の時間帯。

筑波大学附属病院皮膚科

外来：臨床検討会で重要あるいは稀少難治症例を診察、討議する。そこで担当となった患者について、指導医とともに診療にあたる。

病棟：外来から引き続いて担当し、指導医とともに診療にあたる。病理組織検討会では、担当患者の病理組織所見と当該疾患の知見をもとに、今後の治療方針を討議するとともに理解を深める。回診や検討会では、所見や問題点のプレゼンテーションを通じて、問題発見・解決能力を育成する。積極的に学会発表、論文発表を行う。全体を通じて、患者、他職種を含む多くの関係者と良好なコミュニケーションを取りながら、診療を進める能力を育成する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術	回診 手術	教授回診	回診 手術	回診 手術		
午後	手術	臨床検討会		臨床検討会 病理組織検討会	手術		

宿直は2回程度/月を予定

東北大学医学部附属病院皮膚科

外来：診察医に陪席、または指導医の指導の下、外来診察、皮膚科的検査、治療を経験する。月、火、木、金の午後に行われるクリニカル・カンファレンス(CC)で、実際の患者さんを前にして重要症例の診断、検査、治療を学ぶ。

病棟：指導医である主治医のもと数チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察、検査、外用療法、手術手技を習得する。

毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い、評価を受ける。毎週の病理カンファレンスで症例発表を行い、評価を受ける。

皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に1回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来 病棟	外来 病棟	外来 病棟	外来 病棟	外来 病棟	外来 病棟	
午後	病棟 手術 CC	病棟 手術 CC	回診 手術 カンファレンス	病棟 手術 CC	病棟 手術 CC		

※日直・宿直は2～4回／月を予定

中京病院皮膚科

愛知県内でも有数の18病床数をもつ。年間の皮膚科入院患者数は約700例で、膠原病精査と治療、皮膚良性・悪性腫瘍手術と化学療法、アトピー性皮膚炎、乾癬の教育入院をはじめとして、重症薬疹、帯状疱疹、蜂窩織炎、壊死性筋膜炎など緊急性疾患にも対応する。膠原病症例は約800例で、全身性エリテマトーデス、強皮症、皮膚筋炎、混合性結合組織病、関節リウマチ、シェーグレン症候群、ベーチェット病、サルコイドーシス、成人スティル病の症例も多数あり。また、皮膚外科の年間手術例は約750例で再発防止と整容面の両者を考慮した手術を積極的に施行。皮膚悪性腫瘍は手術治療(90～100例/年)を第一選択とし、化学療法を組み合わせた集学的治療を行っている。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
--	---	---	---	---	---	---	---

午前	手術 病棟	外来	手術	病棟	外来	病棟	
午後	病棟 回診	外来 入院カンファレンス	病棟 病理カンファレンス	手術 外来カンファレンス	病棟 回診		

埼玉医科大学病院皮膚科

外来：診察医に陪席し、外来診察、皮膚科的検査、治療を経験する。

病棟：病棟医長のもと数チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察、検査、外用療法、手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い、評価を受ける。毎週の病理カンファレンスで症例発表を行い、評価を受ける。

皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に 1 回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に 1 編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	回診 病棟	手術	外来	外来 手術	カンファレンス 外来		
午後	病棟	手術 病理 カンファレンス	病棟 カンファレンス	病棟	病棟	宿直※	

※宿直は 2～3 回/月（週末は 1 回）を予定

国際医療福祉大学成田病院皮膚科

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、皮膚科一般診療、処置、手術法を習得する。木曜日夕方に写真、病理のカンファレンスに参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に 2 回以上の筆頭演者としての学会発表および年 2 本以上の皮膚科学分野の学術誌への論文投稿を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来 病棟	外来 病棟	外来 病棟	病棟 手術	外来 病棟	外来 病棟	
午後	外来 病棟	外来 病棟	外来 病棟	外来 手術 カンファレンス	外来 病棟	外来 病棟	

週に2コマ（半日を1コマとする）の研究日を設ける

新松戸中央総合病院皮膚科

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の皮膚科医療，処置，手術法，外来診療，入院診療を習得する。東京大学医学部関連病院の連携講演会、日本皮膚科学会主催の講習会、病院内の医療安全講習会を受講する。該当症例があれば、筆頭演者として学会発表および論文執筆を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来	外来 (交代制)	
午後	病棟	病棟	病棟	病棟 褥瘡回診	病棟 手術		

防衛医科大学校医学部皮膚科

外来：診察医に陪席し，外来診察，皮膚科的検査，治療を経験する。

経験を積みながら徐々に処置、外来手術などを行う。

病棟：病棟医長のもと数チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察，検査，外用療法，手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い，評価を受ける。毎週の病理カンファレンスで症例発表を行い，評価を受ける。

抄読会では1回/月 英文論文を紹介する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。また症例によって病理や膠原病内科など他科とのディスカッションの機会や連携施設とのカンファレンスなどを通して幅広い考え方を学ぶ。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来 生検・処置	外来 生検・処置	外来 生検・処置	外来 生検・処置	外来 生検・処置		
午後	病棟	入院患者 手術 病棟	回診 症例カンファ レンス 病理カンフ ァレンス 抄読会 症例検討会	病棟	病棟		

